



厚生労働省 生活困窮者及びひきこもり支援に関する民間団体活動助成事業

北海道 生活困窮者支援 情報交換シンポジウム (第3回情報交換会) 報告レポート

生活困窮者支援制度のあり方と現場をつなぐ支援者支援
～コロナ禍の先に見えるもの～



【開催概要】

【開催日時】 2021年10月15日（金） 13：30 17：00

※厚生労働省も同時時間の参加

【開催方法】 オンライン【ZOOM】

【参加者数】	厚生労働省	7名	
	生活困窮者支援	63名	
	自治体	7名	（北海道・直営含む）
	調査研究機関	2名	
	講師	5名	
	運営スタッフ	4名	合計88名

○当日プログラム（流れ） ◆司会：穴澤理事長◆

- 1 13：30～13：35 開会挨拶・来賓挨拶： 北海道保健福祉部福祉局 地域福祉課長 岡本直樹氏
- 2 13：35～14：25 第1部 講演 ≪生活困窮者支援法制度のあり方 ～コロナ禍の先に～≫
- 3 14：30～15：20 第2部 実践報告 ≪北海道内の生活困窮者支援の現状 ～コロナ禍の中で見えてきたもの～≫
- 5 15：30～15：50 実践報告まとめと質疑応答
- 6 15：50～16：45 第3部 生活困窮者支援情報交換会
- 7 16：45～16：50 道央圏情報交換会の流れ説明
- 8 16：50～16：55 後方支援プロジェクトからのお知らせ
- 9 16：55～17：00 閉会の挨拶

【第1部 講演】

生活困窮者支援法制度のあり方～コロナ禍の先に～

登壇：厚生労働省社会・援護局地域福祉課

生活困窮者自立支援室長 地域共生社会推進室長 唐木 啓介氏

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

コロナ禍における新規受付件数：制度施行後件数が上がっている。

北海道の相談件数も約8,000件→約26,000件との話。全国的にもR2年度の相談は約3倍の増加率である。

【困窮者分野における新型コロナウイルス感染症対策】

[新たな動き] 10月に新内閣に変わり、具体的な経済対策については、可能な限り早い時期に行っていきたい。時期としては来年春ころまでに経済対策を考えていく予定。本日のお話の内容の論点なども踏まえ生活困窮者支援の対策も考えていくことになる。

【生活困窮者自立支援制度の概要】

予算：R3年度の予算：550億円確保。改正法などについて説明。

[新型コロナウイルスの影響などを踏まえながら明らかになった課題について]

- | | |
|------------------|----------------------|
| ○自立の在り方 | ○就労支援状況・家計改善支援事業の在り方 |
| ○就労に向けた準備を必要とする方 | ○居住支援の在り方 |
| ○子どもの学習支援 | ○地域づくり |
| ○中間支援のあり方 | |
| 各項目の説明 | |

【第2部 実践報告】

北海道内の生活困窮者支援の現状 ～コロナ禍の中で見えてきたもの～

コーディネーター：根室振興局保健環境部社会福祉課

地域福祉係長 菊地英人氏

- 社会福祉法人 石狩市社会福祉協議会 生活困窮・資金貸付担当係長 山崎智美氏

動画：<https://youtu.be/xGzoI-7z1jg>

- NPO法人フードバンクイコロさっぽろ 理事長 片岡有喜子氏

動画：<https://youtu.be/qbLVBTr-7E>

- 特定非営利活動法人 しりべし圏域総合支援センター しごと・くらし相談処しりべし

主任相談支援員 吉村寿人氏

動画：<https://youtu.be/JEnBCanPdcS>

- 鷹栖町健康福祉課 地域福祉係長 加藤進冴氏

動画：<https://youtu.be/t1rpW1Ur5yI>

【第2部 実践報告まとめと質疑応答】

◆ 質疑応答・限定公開動画 ◆

<https://youtu.be/1Zo1DRr1UYc>

《質問》かみかわ生活あんしんセンター金子氏：『食糧支援が繰り返しになる方への支援どうされているのか？』

《回答》フードバンクイコロさっぽろ片岡氏：『窓口との連携が必要な一番大きな理由の一つ』『その方の困り具合、次の収入はいつなのか、いつまで持てば食料を買えるようになるのか？など困窮状況等のヒアリング・アセスメントしてくださる支援機関の方と連携しながら対応』『フードバンクに依存ではなく、一時的・緊急的に今困っている方への食糧支援として渡している』

《質問》特定非営利活動法人ワークフェア柳谷氏：『該当の方がこられた場合の庁内連携の共有情報についてご本人にお伝えするのか？』

《回答》鷹栖町加藤氏：『まさに庁内からも同様に質問「もちろん伝えない」』『例：税金の滞納有の情報を確認できている場合「税金の滞納ありませんか？」と確認。そこで嘘を付くかどうか、信頼関係がどこまでできているかなどのアセスメントに役立つ』

《質問》「庁内連携・支援会議の決まりについて」

《回答》鷹栖町加藤氏：『改正された社会福祉法に支援会議の位置づけや守秘義務については厚労省からお話いただいたほうが良い』

《回答》厚生労働省中間氏：『支援会議参加者に守秘義務をかけることにより、本人が同意をしていなくても情報を共有する事ができる仕組み』『支援を拒否しているケースなど、本人の同意がないからとケース介入が出来ないと緊急時に初動が遅くなる』『支援会議に謀ることによって、支援介入を速やかに行える準備の意味合いが含まれている。』『鷹栖町さんの取り組みは庁内LANを活用している仕組みが画期的』

●社会福祉法人石狩市社会福祉協議会 山崎智美氏

『会って話を聴く』

●フードバンクイコロさっぽろ 片岡有喜子氏

『迅速丁寧』

●しごと・くらし相談処しりべし主任相談支援員 吉村寿人氏

『会って話を聴く』

●鷹栖町健康福祉課 地域福祉係長 加藤進冴氏

『情報共有＆繋げる』

【第3部 生活困窮者支援情報交換会】

～生活困窮者支援の孤立を防ぐ～

- (1) コロナ禍での取り組みや地域づくりの情報を共有
- (2) 生活困窮者支援に向けての中間支援に期待すること

【各ルームの構成メンバー】

【ルーム1】北海道社会福祉協議会・稚内市社会福祉協議会自立生活支援センター・函館市保健福祉部・宮古圏域くらしサポートセンター

【ルーム2】稚内社会福祉協議会・生活就労サポートセンターいぶり・千歳市 福祉課生活支援係・かみかわ生活あんしんセンター

【ルーム3】根室市社会福祉協議会・しりべし圏域 総合支援センター・北海道労働者協同組合・小樽市社会福祉協議会・就労継続支援B型

【ルーム4】札幌市生活就労支援センターステップ・るもい生活あんしんセンター・網走市社会福祉協議会・北海道保健福祉部福祉局

【ルーム5】北見市社会福祉協議会・ゆうゆう塾・当別町社会福祉協議会・オホーツク相談センター・帯広市自立相談支援センター・
厚生労働省

【ルーム6】小樽市福祉保険部・石狩市社会福祉協議会・北見市生活困窮者就労準備支援事業所・江別市社会福祉協議会・厚生労働省

【ルーム7】ベトサダ・自立相談支援事業所 とがち生活あんしんセンター・ 相談支援センター こみっと・オホーツク相談センター

【ルーム8】岩見沢市生活サポートセンターりんく・ライフネットゆうばり・オホーツク相談センター・札幌市ホームレス支援センターJOIN

【ルーム9】札幌市保護自立支援課・岩見沢市生活サポートセンター・就労準備支援センター・釧路市・釧路管内生活相談支援センター・
北広島市 保健福祉部福祉課

【ルーム 1】

参加者：北海道社会福祉協議会 ・ 稚内市社会福祉協議会自立生活支援センター・
函館市保健福祉部 ・ 宮古圏域くらしサポートセンター

事業実施状況

- 社協貸付の経由相談が多くを占め、従来の相談支援から変化している。
- 道内各振興局の就労準備支援事業に取り組んでいる
- 稚内社協の出先のため1人で自立相談支援から就労支援、就労準備支援の企業開拓。
- 岩手県内のうち13町を担当。コロナの影響により、相談は約2倍増。

生活困窮者支援に向けての中間支援に期待すること

（一部中間就労についての議論として展開）

- 就労準備支援：企業開拓まで1人でやるのは大変である。この事業は、まだ世間的な認知は十分ではなく、企業により温度差もある。中間支援としてこういった分野に支援があるとよい。
- 支援を実施するにしても、社会資源が少ない状況で、オンラインでつながることに活路を検討するが、地域ではインターネット環境が不十分でiPAD等端末があってもなかなか前に進めない。地域によっては都市部と異なる人口減などの課題もあり、中間支援でこういった部分にも焦点が当てられれば良いかもしれない。
- 当市は4年度に直営から自立相談支援機関を10カ所委託にて実施する予定。受託者が経験不足のため事業者同士のネットワーク構築の推進に期待したい。また、中間支援の情報発信や交流機会により資質向上につながるのありがたい。

【ルール2】

参加者：稚内社会福祉協議会 ・ 生活就労サポートセンターいぶり・
千歳市 福祉課生活支援係 ・ かみかわ生活あんしんセンター

コロナ禍での取組や地域づくりの情報を共有

- 町村広報誌にチラシを折り込み全戸配布。町村役場、社協へ出向き関係をつなぐ。
振興局や役場との異動後の引継ぐ場合、役場によって対応が異なる。振興局とは今年度から、2ヵ月に約1回の頻度で情報共有の場を設けている。振興局の職員が来ることはない。
- 子どもの学習・生活支援事業について、コロナ化の取組み：週2回拠点型活動。
子ども食堂とも連携・不登校児童が学習支援にも参加していたところで、コロナの影響で中止。
貸付：お金の支援になりがちなので貸付をした後の支援について何かしなければならない。
借りたのち音信不通になる方もいる。学生や外国人はまだ連絡をくれる。
- 上川と宗谷は事業所が同じで、オンラインでの取組をしていたが支援員からは、
子どもが利用するスマートフォンやタブレットの画面が小さいため、やりづらさがあると報告あり。
再貸付：お金が借りたのち音信不通になる場合もある。他県で借入している方もいる。
外国人の借入者はその様な事はない。

生活困窮者支援に向けて中間支援に期待すること

- 他地域・機関をつなぐ等、顔の見える関係をつくることで職員のためになる。懇親会等も期待。
 - 事務作業が多いため後方支援的なサポート（入力作業の手伝いなど）
 - 報告様式を道と市で統一していただくことを期待。振興局と市で受託している機関にとっては作業軽減になる。
- ※家計改善支援事業の進め方、費用面、事務処理については、宗谷・胆振ともに苦労しているように見られる。

【ルール3】

参加者：根室市社会福祉協議会・しりべし圏域 総合支援センター・
北海道労働者協同組合・小樽市社会福祉協議会 ・就労継続支援B型

業務の中での悩みやこれってどうなの？工夫したということはあるか

- 当事者で集まるプログラム、社会参加の就労体験が中止となった。
- 孤立している方が社会参加できている中で振出しに戻ってしまう
- コロナ前は体調不良でも参加していたが、コロナ後は不参加になる
- 自粛期間で落ちてしまった人が多いので電話かけ週1回行う。アンケートや交換日記を創って返信してもらうことを月2回程度行っている。書くことで伝えられる人もいる。
- ボランティア先でできることを開拓、セミナー開催など人と関りが持てることを企画した。
江別は有償ボランティアなどで就労に結びついた方もいた。

中間支援の機能があった場合助かること（一部中間就労についての議論として展開）

- 他の市町村でも参加させてもらえることができるシステムが欲しい。
- 各任意事業の担当者が集まれる場が欲しい。事業開拓の成功事例などを共有できるとありがたい
- 就労準備→就労ではなく、その方のペースに併せ、雇用型・非雇用型の体験を中間に挟むなど、その方の心理的負担を軽減するシステムが欲しい。
- 通える範囲の近隣市町村で体験プログラムや理解のある企業の情報を共有できるシステムが欲しい。
- 就労準備支援員・家計改善支援員・学習支援の各担当者同士、各事業の情報交換会の音頭をとってもらいたい

各地域での取り組み その他

- 自立相談支援機関との連携：大都市は住居確保給付金の申請事務で就労準備支援まで手が回らないという課題もあった。
- 後方支援プロジェクト各事業の必要性：実際にシェルター事業などで連携した事例を公表する事で促進が図られる。

【ルール4】

参加者：札幌市生活就労支援センターステップ ・ るもい生活あんしんセンター・
網走市社会福祉協議会 ・ 北海道保健福祉部福祉局

「ひきこもり」支援について

- 本年度から北海道で就労準備事業を開始。そういう対象者をどう把握するかは、都市部でないほど難しい。町村社協に相談することもひとつ。作業をさせる（ステップの手伝い）話が出た。
- 生活保護者だと、ひきこもりを把握しやすい。保健師との訪問など、手法を変え取り組むが難しい。網走では、地域包括支援センターを通し現在30人のひきこもりを把握。

困窮の相談がない

- ほぼ特例貸付。相談があっても障がい者を障がい部門へつなぐ程度
- 住居確保給付金を受付続けること、特例貸付や自立支援金の対象者のデータ化は大きな業務。相談者における障がい、障がい疑いの比率も大変高い。生活ぶりを聞く限り疑いが濃厚な人は多い。メンタル不調も多い。この2つで一般相談の7割は超えるだろうと話している。困窮者相談のターゲット層は来ている。
- 今年から北海道庁で、町村部の自立支援にアウトリーチの補助金をつけた。町村の社協とか地域包括支援センターや行政を回って、顔見知りの関係づくりから相談を拾いやすくする取り組み。
今年の4～8月の相談は、コロナ禍が始まった昨年同期より 1.2 倍に増えた。今年から開始したアウトリーチの相談数増。

中間支援としての要望

- 「困った」と行き詰ったときにメールでも電話でも、直接解決がなくても相談できる先があると助かる。
- 困窮者の制度を知らない行政関係者が多く、協力を得にくい。
- 各種支援機関が集まる都市部・利用経験がある立場 として、どこに相談したら良いかなど、調べる手間が惜しいときにはチカラになれると思う。気がるに問合せしてほしい。

【ルール5】

参加者：北見市社会福祉協議会 ・ ゆうゆう塾 ・ 当別町社会福祉協議会・
オホーツク相談センター ・ 帯広市自立相談支援センター ・ 厚生労働省

コロナ禍での支援の現状

特例貸付で相談者急増。都市部は前年度比10倍。電話鳴りやまず相談者行列。郡部は1.5-2倍と地域差あり。業務負担が増加。支援者の孤立、余裕を失い心がすさんでいく。これまでは関わったことのない中間層、自営業者からの相談が増加。ギリギリで生活していた層が一気に生活が崩壊。特例貸付をきっかけに社協との連携強固。他部署からの応援時、共通のアセスメントシートを活用することで情報整理し効率化を図る。住居確保給付金の申込も都市部と郡部では開きが大きい。持家の有無にもよる。貸して終わりにならないような対応を目指す。地域の中に伴走者を作る。自治体と方向性を合わせ協力を得る。自立相談の活動をまず知ってもらうこと。学習支援事業では外での活動を取り入れる。親支援の実施。オンラインの活用。通信費のサポートを得られると聞いた。今後はタブレットの活用も検討。

支援調整会議、事務作業の効率化や工夫について

システムを改善し事務作業の効率化を図りたい。自動保存、タブで画面を複数開けるようにして欲しい。戻るボタン欲しい。

まとめ・次回情報交換会について

- 各地域の社協に困窮者支援の温度差があったが、「コロナ」という共通業務を通じて相談者とも顔の見える関係を作れた。
- 自立支援機関がSOSを発信することも自分たちの業務だけではなく、地域で起きていることへの理解を深めることにつながるのでは。
- 各地の取り組みを知りたい。
- 生活困窮者支援に対する自治体の方向性が事業展開に影響する。あきらめず自治体に言い続けることが大事。
- 分科会のようにテーマを狭めて話し合いの場を持つことでもっと具体的な話をしていくことが可能ではないかと思う。

【ルール6】

参加者：小樽市福祉保険部 ・ 石狩市社会福祉協議会 ・ 北見市生活困窮者就労準備支援事業所 ・
江別市社会福祉協議会 ・ 厚生労働省

コロナ禍での取組み、地域づくりの情報共有

- フードバンクの活用、食料の提供・食料集めについての話題として情報共有を図る。
- イコロさっぽろさんと連携。食料提供、協力いただける企業・団体・お寺から寄贈してもらった食料を活用。
ボランティアセンターに協力してもらい食料を集めている。
(コロナ禍によりボランティア活動が制限されている中でボランティアさんの活躍の場にもなる)
- 食料提供していることが他の相談者やセンター利用者に気付かれないように渡す場所にも配慮して実施している。
- 外国人は宗教的な問題で食べられない物もあるため注意して提供している。
- 保管場所や消費期限のチェックが課題。消費期限が近い食品があることで、相談者に連絡が取れるメリットもある。
(相談者とつながり続ける支援として有効！)
- フードバンクに頼りすぎないように地域・地域住民への働きかけも大事！

中間支援機関に期待すること、求めること

- 住まいなしの相談に対応・活用できる後方支援の事業を継続してほしい。
(各自治体で住まいなしの相談には市営住宅や教職員の元社宅の活用や理解のある大家さんの協力を得るなど
工夫して対応しているが非常に苦勞している)
- 北海道の無料低額宿泊所の一覧を作成してほしい。
- 情報共有の場から現場の意見を吸い上げて使いやすい制度となるように働きかける役割を担ってほしい。

【ルール7】

参加者：札幌市保護自立支援課・岩見沢市生活サポートセンター・就労準備支援センター・
釧路市・釧路管内生活相談支援センター・北広島市 保健福祉部福祉課

制度・仕組みについての丁寧なサポートがほしい

- コロナ禍に伴い、総合支援資金のルールが段階的要件緩和など、多岐にわたるルール変更が 何度も行われた。突然連絡が来ることも多く、わからない中での戸惑いが数多くあった。
- 町村の支援現場では、新たな任意事業として家計改善支援事業が開始されたが、情報が少ない
⇒現場の手探り感・困りごとが多岐にわたり負担・不安になることも多い。そうした現場に寄り添うサポートが欲しい。

中問題提起・提言について

- 現場で困っていること、悩みを伝える場所が少ない（ない）
- 愚痴だけではなく問題点を整理し、何がボトルネックとなっているかの分析も必要。
⇒それらを各地から集めることにより、道や国に対し、現場での問題点についての情報提供、改善点に向けての要望を行っていくことも中間支援組織の重要な後方支援の一部ではないか。

具体的な支援手法の助言

- 例えば、家計改善支援事業のキャッシュフローをどのように書けばいいか、等支援の過程で細かいことが気になってこれで本当にいいのかなと思うこともよくある。
- 支援環境がどんどん変わっていく中で、従来通りの支援をしていても時代遅れとなり、適切な支援ができなくなる可能性もある。
- 一方、そういうデジタルに強い支援者も一定数いるとも思われる（特に若い人）
⇒支援スキル向上に向けての相互サポートなどができればありがたい

【ルール8】

参加者：岩見沢市生活サポートセンターりんく ・ ライフネットゆうばり・
オホーツク相談センター ・ 札幌市ホームレス支援センターJOIN

コロナ禍での取り組みや地域づくりの情報共有

- 札幌の一時生活では、シェルターの相部屋、共同生活の都合上、スペースの確保が困難になった状況とその対策として始めた。ゲストハウスの借り上げを使って別スペースを確保した取り組みとスペースを一時生活支援事業の制度外でも利用できる様にした。その効果について説明した。
(コロナ禍で増えた困りごと：各参加者共に、今までは、ほとんどなかった自営業者から問い合わせが増えた事。その内、当事者が相談対応を求めず、単純に経済的な支援を希望する場合が大半である事に困惑し対応に困っている。
- 観光産業がダメになったタイミングで、一気に相談が増え、対応に追われた事：地域の事情が影響していると感じた。

中間支援に期待する事

各参加者、中間支援や後方支援のイメージが出来ない様子。フードバンクに話題を絞った。

- イコロと連携しフードバンク利用している。当初はセットで渡される物をそのまま提供していたが、炊飯器が無い為コメを炊けない者もいる為、渡し方に工夫をしている。
- 障がい者支援関係でハンズハーベストと繋がっていたため、積極的に利用。困窮者に対しては、第1週、第二週と月2回に分けて、20件ほど配布。作業的に追い付かない、賞味期限等の都合上、渡し方の工夫がしにくい事に困っている。
- オホーツクー現在はイコロと提携している。元々職員の寄付で食料提供は行っていた。
- フードバンクの対応以外にも、コロナ禍で相談が増え、人手が足りない状況が続いているが、各団体どれぐらいの相談件数に対し、どの程度の職員数で対応しているか知りたい。

【ルーム9】

参加者：札幌市保護立支援課・岩見沢市生活サポートセンター・就労準備支援センター・
釧路市 釧路管内生活相談支援センター・北広島市 保健福祉部福祉課

要 望

- 他自治体で市民が役所のどこの部署に相談、受付すれば良いかが分かるLINE BOTのサービスは良いと思った。
この発想で全道の生活困窮に関するLINE BOTが出来ると良い。
- 田舎だとネット環境にない方、スマホを持っていない方もいらっしゃる。LINE BOTの完成後、その内容の紙媒体のフローチャートを作成し配布できると良い。
- コロナ禍で支援メニューが増え、支援員としては覚えられないことが多くなった。そこで完成したLINE BOTは、支援員が相談を受ける際にも役立つのではないかな。
- 就労準備について課題を抱えていて、支援員同士で情報交換やアドバイスをもらえればと思っていた。
- このグループ討議の時間は予めテーマが設定されていて、希望するテーマで情報交換等できるとより深い議論ができ、すぐ日々の業務に反映することができると思う

その他

- 抱えている課題や立場がバラバラだと色々と気を遣うことが多く、ディスカッションが難しかった。
テーマ別のグループ討議はナイスアイデアだと思う。そういった場を作ること自体が中間支援そのものだと感じた。
テーマ別の討議が深まる中で具体的な中間支援のニーズが出てくるのだと思う

菊地氏

道央圏生活困窮者担当者情報交換会の流れ説明

平成27年度より、生活困窮者支援機関担当者同士の情報交換を目的として情報交換会を実施。

自治体から自治体へバトンを渡す形式にて実施してきた。

・北広島市からしりべしへバトンをバーチャルに受け渡し。

- 開催予定地であった波多野氏→後志・くらし～吉村氏にバトン
- 開催地に偏りしないように、幹事にバトンを渡していく
- 開催地：幹事が決定（事例・法改正についてなど）
- つながりが大事な場所

続・後方支援プロジェクトからのお知らせ

17 : 00

佐渡・四井

【LINEBOT】

- 北海道支援情報ナビとして動いている
 - 相談窓口をLINEBOTにてナビをする「悩んでいる人が探しやすいナビ」
 - 少し形になってきている
 - 行政の枠を外れてできる「フードバンク」「子ども食堂」などあるだろうと仮定
 - 相談者向けだけでなく、どここの地域でどういう窓口があるかを把握できるように支援員のレベルアップにつなげる目標も
- 上記方向性が決まってきた
- ※資料を画面共有してどのような進め方をするか説明
- 実走したあと：フィードバックしてもらいより良いものに
 - 11月ころにはスタート予定

まとめ・次回のテーマについて

17：10終了

- 3・5・9グループからグループディスカッションの内容について発表
(各グループ報告を参照)
次回情報交換会にむけて、各任意事業やテーマごとに情報交換ができるといいなどの意見があった。
- 厚労省からのコメント
各自治体やそれぞれの支援機関が事情を抱えながら取り組んでいる様子がわかってよかった。
こういった現場の話を聞ける機会はなかなかないので非常に参考になった。
各自治体や支援者同士が集まって情報交換できるこのような仕組みは貴重な場になる。

次回日程について

2021年12月17日（金） 15：00～

『ご参加のほどよろしく願いいたします』